

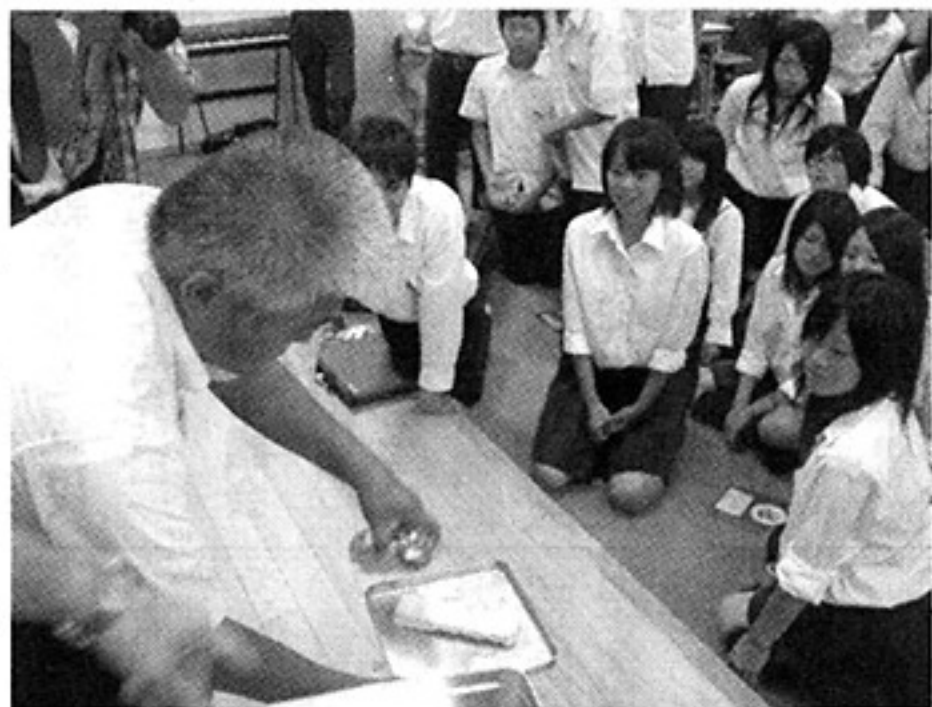
薬物の怖さを訴える

中田商事社長
地元中学生に

中田商事（三重県伊賀市）の中田純一社長は10日、地元の城東中学校を訪れ、覚せい剤やシンナーなど薬物乱用の防止を訴えた。

これは中田氏が所属するボランティア団体が企画した活動の一環で、今年4月に新設された同校の3年生を対象に行った。

中田氏は、学生時代の先輩が薬物依存症となり、家族を持ったものの後遺症が原因で死亡した例を挙げながら、「若い時の失敗はいくらでもしろと言いたいのが、薬物だけはやり直しが利かないので絶対にダメ」と訴えた。また、発泡スチロールにシンナーをかけ、あっという間に溶けていく様子を実演。驚きの声をあげる中学生に、「これを吸ったら体がどうなるかよく考えてほしい」と話した。（加藤 崇）



実演しながら説明する中田氏